



No. '24-4

(No.119)

Oct. 2024

ISGG NEWSLETTER

伊東市善意通訳の会

C O N T E N T S

- | | | |
|-------------------------------|-------|----|
| 1. Red Sea Crisis—第四の戦場、紅海 | 菊池善次郎 | 2 |
| 2. 「伊豆の国外国語ガイドの会見学会」
に参加して | 藤本 稔 | 6 |
| 3 一生分の運を使い果たした話 | 相良 恭子 | 7 |
| 4. PAUL HOFF 氏 講演会報告 | 小西 恒男 | 10 |
| 【事務局便り】 | | 13 |
| 【編集後記】 | | 14 |



Red Sea Crisis—第四の戦場、紅海



菊池善次郎

ロシア/ウクライナ戦争（2022 年 2 月勃発）を第一の戦場、イスラエルのガザ（ハマス）攻撃（2023 年 10 月勃発）を第二の戦場、そしてイスラエルのレバノンの首都ベイルート（ヒズボラ）の空爆/侵攻を中東近隣の第三の戦場とした場合、今尚続くイエメンのフーシ派反政府武装集団が船舶へ無差別攻撃を行っている紅海 (Red Sea) は第四の戦場と云えます。もう 1 年になります。日本ではその様子があまりニュースとなっていません。

戦場が海の上でカメラが入り難いためか、或いは対象が船舶や船員という限られたもの/人だからかもしれません。

私は、この第四の戦場である紅海へは昔幾度も行き、又、スエズ運河を利用した欧州・地中海方面への船のルートとして度々航海しました。フーシの本拠地となっているイエメンのホデイダ港、アッサブ港/マッサワ港（旧エチオピア）、ポートスーダン（スーダン）、ジェッダ（サウジアラビア）、アカバ（ヨルダン）、スエズ港等々、懐かしく思い出します。そんな訳でこの第四の戦場のニュース、私は気になります。関心を持って見ています。

以下、第四の戦場、紅海の状態を簡単に纏めました。

私たち日本国民の生活にも大いに関係してくる話ではないかと考えます。

因みに、本件米英の報道では「RED SEA CRISIS」と云うように表現しております。



☆ フーシとは何者か？

私、イスラム教を含め宗教のことは詳しくわかりません。ニュースなどの解説をベースに要約すると以下の様なことだろうと考えます。

イエメンのイスラム教徒集団にシーア派とスンニ派の 2 派あり。フーシはシーア派系の集団。1990 年代に入り隣国であるサウジアラビア（スンニ派多数）がイエメン

のスンニ派を優遇/加勢、スンニ派宗徒を増やそうという“おせっかい”を行った。これにイエメンのシーア派が危機感を感じ、強く反発、フーシ集団（軍隊）を結成した（2004 年）。政府（スン



MV RUBYMAR, 19,420 トン バルクキャリアー
中米ベリーズ船籍。2024 年 2 月、フーシによるミサイル攻撃を受け沈没。

ニ派多数）に反発を始めた。その後ろ盾にはイラン（シーア派多数）がおり、武器/軍事力（指導など）で圧倒的強さの軍事集団となった（メンバー数不明。数万人程度と云われる）。イエーメン政府は全くフーシを統制することは出来ていない。政府への反発は必ずしもスンニ派/シーア派と云う宗派争いではなく、主に政府の貧困対策への不満、政治の腐敗と不平等への反発といわれる。

世界の船舶に対する攻撃（2023 年 11 月から）は何故？ 一つはフーシの存在を世界に示すことであるが、トリガーはイスラエルによるパレスチナ ガザのハマス（シーア派イランが支援）への攻撃とレバノンのヒズボラ（シーア派組織）への攻撃（2024 年 9 月の通信機器爆破事件よりも前から争っていた）であるが根幹はイスラエルへの反発とその同盟/友好国アメリカ、英国、カナダ、フランス等々欧州諸国への反発からと考えられています。

☆フーシの船舶攻撃は何時から始まったか？

2023 年 11 月 19 日日本郵船（株）運航の自動車専用船“MV Galaxy Leader”（船主は英国、乗組員は全員外国人。日本郵船は船を傭船（賃借）している立場）が空と海からの攻撃を受け乗っ取られたのが最初のケース（NHK のニュースでも映像が流れました）。本船はホデイダ港に連行され現在もそこで錨を入れている。乗組員も解放されていない。



自動車専用船“MV Galaxy Leader”
G/T：48,710 トン 乗組員：25 名（全員外国人）国籍：BAHAMAS 船籍港：NASSAU
（拿捕された後フーシがホデイダ港に連行）

その後、その年 12 月に 14 隻が攻撃を受け、今年に入って 1 月 7 隻、2 月 10 隻、・・・と云う様に 9 月までに合計 67 隻の船舶がフーシのドローン、ロケット弾、ミサイル、或いは無人自爆ボート（特攻艇。Unmanned Surface Boat と呼ばれる）により攻撃を受け、沈没、火災、爆発、浸水など大きな被害を受けています。



MV Marlin Luanda 10 万 9,991 トン
船籍：マーシャルアイランド
2024 年 1 月 ミサイル攻撃を受け
炎上。



大型タンカーMV SOUNION 16 万トン ギリ
シャ船籍 乗組員 25 名
2024 年 8 月ドローンによる攻撃を受け、
更に船内に爆発物を仕掛けられ爆発、炎上
した。

★世界の海運会社の対応

殆どどの海運会社は船舶が紅海を航行することを避け、アフリカ南端の喜望峰まわりで極東・アジアと欧州を結ぶ迂回航路を選択しています。フーシは「イスラエルに何んらかの関係がある船（例えば船主、乗組員、積荷、寄港地などがイスラエルに関わっている船舶）をターゲットとして攻撃する」と当初は云っていましたが、実際は関係のない船まで攻撃を受けてお



り、「無差別攻撃」です。日本の海運会社は昨年末より全船紅海を避け、喜望峰回りで欧州/地中海へ向かう様にしています。現在もこの迂回航路が続けられています。

アメリカ、イギリス、フランスなど欧米諸国は軍艦を紅海に配備し、「繁栄の守護者作戦」と云った商船保護の有志連合を組み紅海の商船を護衛することも試みてはいますが、海は広いし大きいし、護衛には限界があります。やはり殆どの船舶は喜望峰回りの航路をとっています。

又、アメリカの軍艦はホデイダ港のフーシの本拠地への艦砲射撃や空爆を試みています。

国連安保理は勿論ですが、ICS（国際海運会議所）や IMO（国際海事機関）等、世界の海事関係諸団体もフーシの船舶攻撃を強く非難する声明を出し、攻撃を直ちにストップするよう要求しています。

しかし、そんなことぐらいで攻撃を止める相手ではありません。相変わらず船舶攻撃は続いています。

★私たちの生活への影響

上記の通り日本/欧州・地中海航路の船は紅海の危険を避けアフリカ南端の喜望峰回りで航海しています（略図参照）。当然航海日数が長くなります。コンテナ船を例とした場合、片道 10 日から 2 週間（船のスピードにより異なる）の航海延長、往復 20 日から 28 日の航海日数が増えます。

この航海日数の延長は海運経営にとって大変なロスとなっていると考えられます。ロスの要因は、この間の船の燃料代と傭船料（借船料のこと）が最も大きいでしょう。大型コンテナ船で燃料（C 重油）は 1 日 200～250 トンも使います。値段は現在 1 トン約 500 ドルです。燃料代だけで 1 日 1,500

万円から 1,800 万円以上かかります。更に、傭船料(借船料)については 1 日当たり 800 万円から 1,000 万円を超える船もあります。この二項目だけで 1 船 1 航海、6~7 億円以上の単純ロス(コスト増)になっているかと考えます。

(注) 近年の海運は船の所有者(船主)と運航者(傭船者)が分割されていて運航者は船を船主から賃借りし運航するのが通常です。船主の中にはパナマなど海外子会社も含んでいます。

この膨大なロスは海運会社だけで Absorb(吸収)できるとは思いません。サーチャージなど運賃アップが考えられます。そうすると荷主は貨物(商品)の売買価格を上げざるを得ない。つまり私たちがスーパーで買う物の値段が上がるという理屈になります。

島国日本。自給率は現在約 40%。私たちの口に入るものは 60%を輸入に頼っていると見ることが出来ます。今年 10 月 1 日から 2,900 品目を超えるいろいろな物が値上がりしました。スーパーやホームセンターで値上がりを実感します。それら値上がりの要因に既にフーシの船舶攻撃の影響によるものが入っているんじゃないか?とも考えます。

☆おわりに

この原稿を書き始めた 10 月に入ってから紅海では 2 隻の船舶、MV Cordelia Moon 号(16 万トンタンカー、パナマ船籍)及び MV Minoan Courage 号(8 万トン バルクキャリアー リベリア籍)がフーシのミサイルと無人自爆ボートによる攻撃を受け火災が発生したと云うニュースが入っています。フーシの船舶攻撃は止むことを知りません。いつまで続くのか。専門家は「イスラエルによるガザとバイルートへの攻撃が止まない限りフーシの攻撃も止まないだろう」と考えているとのこと。イスラエルの攻撃は止むどころかますますエスカレートしています。ガザの死亡者はこの 1 年で 4 万人を超え、負傷者は約 10 万人とのこと。又、レバノンへの攻撃では 9 月末死者が 2000 人を超えたとのことでした。

連日テレビで見る中東情勢は見るに堪えません。悲惨そのものです。イスラエルの強硬姿勢で世界がますます分断され、めちゃくちゃになっていく感じがします。一方、ガザやバイルートの話題でロシア/ウクライナ戦争の影が薄らいでいますが決して解決してはいません。戦火は燃え続けています。更に又イラン/イスラエルの関係がおかしくなっています。

本当に全て何とかならないものか。そして紅海も平和な海となり、私の現役時代の様に世界の船が、船員が、攻撃の心配も無く、安心して航海できる様になってもらいたい、と切に願っている一人です。

Peace in the Middle East ! Make Red Sea safe again !

伊豆の国外国語ガイドの会見学会に参加して



藤本 稔

2024 年 9 月 21 日(土)に「伊豆の国外国語ガイドの会」主催のガイド見学会に参加した。「伊豆の国外国語ガイドの会」は、韮山反射炉及び江川邸(反射炉を建造した韮山代官江川太郎左衛門英龍邸)等伊豆の国市内史跡等を訪れる海外からのお客様(観光客)を対象に、英語でのガイドを実施されている。



韮山反射炉全景

今回の見学会の場所は、伊豆の国市の韮山反射炉であった。当日は、好天に恵まれ集合時間の午前 9 時 30 分に行ってみると、なんと、かなりの見学の方がぞくぞくと集合されているではありませんか・・・。

今回は、ガイド研修中の方 6 名が参加されており、小学生から高校生、大学生そして大人の方までと年齢層も広く、またすべて女性であった。

最初に会長の挨拶の後、見学者は数名ずつ 6 つのグループに分けられ、それぞれ研修ガイドの方が引率し、見学が始まった。

韮山反射炉については、名前は知っていたもののこれまで訪れたことはなく、どんな建物なのか、また何のために建造されたのか？まったく知識がなかったので、非常に興味深いものであった。

当日の集合時間が午前 9 時 30 分であったので、自宅(伊東市八幡野)から当日車に来るにはややしんどい(高齢ドライバー?)と思い、前日に近くの温泉宿(伊豆長岡温泉)に宿泊することにした。前日は早めに到着したため、韮山反射炉の場所を確かめるためにも、少し立ち寄ってみた。近くに物産店があったので入ってみると、

葦山反射炉についてのビデオが流されており、しばらく楽しむことができた。また、葦山反射炉の解説本を見つけたのでさっそく購入し、宿に帰って少し読んでみた。読み進めていくうちにその内容に引き込まれるばかりか、江川太郎左衛門のその偉大さに驚くばかりであった。

翌日(見学会当日)は、昨日少し勉強できたのでガイドの方がどのように説明されるのか？期待感が生まれてきた。

今回の目的は、葦山反射炉(2015年に世界遺産に登録された)について、どのように英語でガイドされるのかを勉強することにあるので、葦山反射炉については、ここでは省略する。

ここでのガイドは、海外からのお客様に対して英語で説明することになるので、日本語での場合に比べ、語句の表現や

伝え方に高度なガイド術が求められると思われる。一辺倒に知識を英語で羅列しただけのガイドでは、果たしてお客様に興味を持ってもらえるだろうか？特に歴史的な建造物等では生い立ちやその背景も重要になり、また馴染みのない用語や専門語なども多々出てくる。お客様の中には、日本の歴史に詳しい方、専門的な知識を持っている方等様々です。お客様はどんなところに興味を持っているのか？何が知りたいのか？またどのように表現すればガイドの説明に耳を傾けていただけるか？等々その時の状況によって、ガイドの力量・真価が問われる。

引率してくれた研修ガイドの方は、口頭だけの説明だけではなく、スケッチなども取り入れ、また、ガイド途中でクイズを出すなど、お客様が耳を傾けてもらえるような工夫・配慮がなされ勉強になった。ガイドの終盤には簡単なクイズ問題が出され、参加者はそれぞれ結構盛り上がったと思う。

私は現在、「伊東市自然案内人養成講座」を受講中で、ちょうどこの間受講した講座「“よりよい伝え手”になるためのガイドテクニック」を思い出した。今回の現地見学会の体験を踏まえ、基礎をしっかり身に付けなければならないと実感した。今回初めての見学会であったが、今後も機会があればできるだけガイド現場に出向き、ガイドのノウハウを身に付けていきたいと思います。



江川太郎左衛門の像と反射炉

一生分の運を使い果たした話

5年前ひょんな事から「2泊3日中国旅行」に無料招待されました。「ひょんな事」とは・・・旧友と東京渋谷に当時出来たばかりの「渋谷ストリーム」で友人とランチをした時のこと。



相良恭子

中庭で団扇や扇子に好きなようにデコレーションすれば福引

（ガラガラポン）が出来るというイベントをやっていて、

暇つぶしのような軽い気持ちで二人で参加しました。

団扇や扇子のデコレーションが終わって福引の所に行ってガラガラポン

のくじを引くと金色の玉が出て来てアルバイトの学生らしい男の子二人

がびっくりしたように気のない様子でパチ…パチ…パチと拍手して

くれました。なんと「2泊3日杭州、西湖への旅行」が当たったのです。

後で聞くとところによるとイベントはANAの中国再就航のキャンペーンで、

日本と中国との政府間のトラブルである時期中国には観光旅行の就航が

出来なかったのが、ようやく中国に観光旅行の飛行機が乗り入れ

出来るようになった記念でした。

キャンペーンでの扇子デコレーション



友達が「あなたなら行くよね。」と言ってくれたので、その場は一応連絡先を伝えて帰りましたが、「2

泊3日で成田空港発…」どうしようかなと思っていましたが、パートナーに「行っておいでよ。成田空

港まで送り迎えしてあげる。」と言ってもらったので、行くことにしました。当時、パートナーは小田

急沿線に住んでいました。私は中国生まれで一度は出生地の大連に行ったことがあり、その時に北京に

は行きましたがその他の地は行ったことがありませんので、何かの縁かなと思いました。

（1日目）

11月某日朝4時頃に起きて成田空港まで送ってもらいました。空港に着いてもそれらしい団体は居な

いので搭乗口まで行きましたがほとんど人は居ません。一組のご夫婦らしき人が日程表らしき物を持っ

ているので、杭州西湖に行く方かと聞いてみしたら、そうでした。どうやら現地まで各自で行き、空

港で集合するようでした。ようやくホッとしました。

1日目は2、3の観光場所に行ったのですが朝4時起きのせいであまり覚えていませんが、着陸時に空

から見た細いビルのような公営住宅群が印象的でした。やはり小田急沿線から来ていた家族と親しくな

り同じテーブルで食事が出来ました。ホテルはドイツ首相メルケルさんなど各国要人も泊まった立派な

ホテルでした。

（2日目）

今回のメインイベントで中国の大学生と二人組になり西湖の周りをウォーキングするものでした。

私と組んだ男子学生は「浙江工商大学」の

学生のさんで、とても良い子でラッキーでした。

河北省出身でお父さんは警察官だと言っていました。

日本文学を専攻していてウォーキングの間、

「伊豆の踊子」を読んでいて、山口百恵さんのファンであるとか、ついには「源氏物語」の話になりま



西湖ウォーキング

した。まだ読んでいないという事でしたが、私は読んでいましたので私流の解釈で私はこんな風に理解したと話しました。「光源氏は幼くして亡くした母親の面影を求めて、色々な女性とお付き合いしたけれど、理想の女性には巡り会えず、結局、若い少女を養女にして、自分の思う理想の女性に育て上げるのだが、さて、光源氏が理想とした女性はどんな女性だったのか…彼が今まで会って来たいわゆる女性らしい女性ではなく、むしろ活発で賢い女性だった。…」などと話し、もし彼が源氏物語を読んだらどう解釈したか聞きたいなどと会話が途切れることはありませんでした。彼は日本の成城大学に留学したと言っていましたので、もし日本に来たら、出来る限りサポートすると約束しました。しかしこの約束はコロナでダメになりました。西湖ウォーキングは無事終わり日本の観光客と学生とで昼食会がありました。学生たちが歓迎の歌を日本語で歌ってくれました

夜は松平某(元 NHK アナウンサー)の講演があったり、短い京劇や抽選会があったり食事も豪華でした。私はみんなキャンペーンの招待客かと思ったのですが、私の周りには招待客はいず、みんな旅行代金を払って参加したようでした。

(3日目)

朝食で、又、小田急沿線から参加した家族の方が声を掛けて下さり一緒に食事しました。一つ残念だったのは親しくなった家族は御夫婦と御主人の妹さんだったのですが、そのキャリアウーマンらしい妹さんがバイキングでソフトクリームを自分で運んでいた時に床にソフトクリームの上の部分落了たのですが、落としたのを知っていて知らん振りして行ってしまいました。仕方なく、私がボーイさんに中国語は話せないで英語で「誰かソフトクリームを落としてしまったようなので、他の人が踏むといけないので片付けて頂けますか？」と言うと快く片付けてくれました。日本人のそういう不作法は恥ずかしいなあと思いました。

朝食後は少し観光、季節の変化で流れがかわる‘逆流する河’をみたり、中国の街を散策しました。街の入り口では ANA の社長もスタッフと並んで挨拶してくれました。余程中国再就航が大事件のようでした。



杭州 河坊街にて

2泊3日の超短期間の旅行でしたが、中国にもう一度行けた事を嬉しく思いました。帰宅途中、パートナーに「これで君は一生分の運を使い果たしたね。」と言われました。

PAUL HOFF 氏 講演会報告



小西 恒男

1) はじめに

2024年10月20日（日）午後、伊東市ひぐらし会館の会議室においてISGGと関係の深いPAUL HOFF氏（以後尊敬を込めてポールと呼ぶ）の講演会が行われた。

会を主催したのは伊東郷土研究会である。当研究会は伊東や伊豆地方の歴史に興味のある仲間が集まったボランティアグループで、発足は1966（昭和41）年とその活動の歴史は結構古い。現在会員は15人で、月に1度会員や外部の有識者を講師に招いて勉強会を実施しており、筆者もそのグループの一会員である。

ポールはミネソタ州出身のアメリカ人であるが、永年にわたり伊東の赤沢地区に（日本人の奥様と）住んでおり、伊東との縁が深い関係からISGGとも付き合いが深く、ISGGのイベントに時折参加してもらうことがある。その折に伊東や伊豆についてよく研究しており、ポールの知識がけた外れに深く、その道の専門家であることを知ってびっくりしたことを覚えている。

今年の5月、主原会長宅で伊東高校ALT／ケイティ パワーさんの送別会があり、参加した。

伊豆のALTとその友人達が多数集まり、料理と飲み物それになごやかな会話が加わり、大変楽しいひと時を過ごした。この時ポールとゆっくり話し合う機会があった。

ポールに伊東郷土研究会の活動を説明し、毎月1度例会を開催し、スペシャリストを講師に呼んで、伊東や伊豆について勉強会を行っていることを話した。そして講師の役をお願いした。ポールの返事は”Yes”であった。

早速伊東郷土研究会（会長 篠原 憲）に報告し例会の準備を進めた。2～3度ポールとメールでやり取りし、日程（10月）と場所（ひぐらし会館）を設定した。

7月のイチゴサロンでポールの講演の話をした際、主原会長よりISGGを共催に加えたらとの提案があり、全員一致で共催を決定した。

9月初旬、ポールに篠原会長を紹介し例会の最終打合せを行った。その際ポールから「流刑地 伊豆」をテーマにしたいと提案があった。

更にポールから現在伊豆新聞に毎週日曜日「ポールホフの歴史談義」として文章を投稿中であるとの話を聞き、（8月～10月にかけて10回 掲載）伊豆新聞に後援をお願いすることにした。

ポールから必要な情報を入手し、篠原会長の手でチラシ50部を作成、関係先に配布した。

2) 講演会



伊東郷土研究会の10月例会で講演中のポール
参加者44名と大盛況であった（主原会長提供）

10月20日（日）開始時刻（13：30）の30分前に会場に入り講演の準備を行う。今回の講演はプロジェクターの使用を事前に打合せておいた。暫くしてポールが（日本人の）奥様と共に姿を見せた。二人でプロジェクターの配置や講演の場所などを決め、準備は完了した。

尚、配布資料は伊豆新聞掲載の関係分のみを準備して配布してほしいとの依頼であったが、私の判断で10回分の掲載文すべてをコピーし、参加者に配布した。（A4版10ページ）

準備が予想外に早く終わり開始まで20分程余裕があった。ポールに用意した講師席に座るよう促したが、彼は全く座ることなしに立って参加者が入って席に着く様子を眺めていた。そして今度は入口に来て、入室する出席者に挨拶を始めた。これには私はびっくりした。ポールのフレンドリーな人柄が良く出ており、彼の人間性が快く感じられた。

定刻の10分前には会場はほぼ一杯になり、慌てて予備の椅子を準備したり、最前列の余った机

を使用するなどバタバタしてしまった。

一番困ったのは配布資料が5～6名分不足したことである。当初参加者は30名程度と考え、資料は多めのつもりでコピー40部用意したが十分ではなかった。

尚、今回の参加者は44名であった。内訳は伊東郷土研究会（主催者）8名、ISGG（共催）14～5名、一般参加者 21～2名であった。 定刻になり例会を始めた。

最初に筆者が挨拶に立ち、資料不足のお詫び、篠原会長の欠席やポールの紹介などを行った。

いよいよポールの出番である。

まず本人より自己紹介があった。彼の日本滞在歴は49年である。HSBC銀行（アメリカ）から派遣されて初来日。その後銀行を辞して日本に残り、伊東市の赤沢に別荘を購入、伊東市の住人となる。

爾来伊豆に関心を持ち日本語、英語、中国語の文献を読むなどして研究を続け今日に至る。

講演の最初は ”IZUVIA” という言葉の説明であった。伊豆を表わす言葉であるが、伊豆地方と伊豆七島（東京都に帰属）を含む地域を言う。”IZUVIAN” はその地域の人々を表わす。

次に伊豆半島の生い立ちについて前置きがあり、古代の日本史（朝鮮半島）から始まる難民、流人の経緯についての説明があった。大変興味深い話であった。

次に今回の本題「流刑地・伊豆」に入る。古代から江戸時代の長期にわたり流罪人の多くが流刑地伊豆に流された。流罪人としては役の行者（えんのぎょうじゃ、7世紀）、源為朝・源頼朝（保元・平治の乱）や源頼家、日蓮上人（鎌倉時代）、中国の高僧蘭溪（鎌倉時代）や宇喜多秀家（江戸時代）などが紹介され、併せて流刑地である伊豆半島、伊豆大島、三宅島、八丈島など当時の状況について説明があった。

特に保元・平治の乱（11世紀）については時代背景をベースに詳細な説明があった。

ポールの研究の一端を表わす材料として今回配布した資料「ポールホフの歴史談義」がある。伊豆新聞に連載されたものである。参考のためにそのタイトルを紹介する。

- 1) 安政地震とその後の日本
- 2) ディアナ号沈没 村民と協力「ヘダ号」建造
- 3) 貿易の原点は黒曜石物々交換
- 4) 伊豆への仏教の広まり
- 5) 私論 伊豆の仏教の歴史
- 6) 悪名高き流刑地 八丈島（今回のテーマ資料）

7) 頼朝の野望と伊豆

8) 北条早雲ら後北条家の台頭

9) 日本三大仇討 「曾我物語」

10) 忠誠、裏切り、復讐の物語 (曾我物語)

一時間の説明が終わり、質疑応答に移った。参加者から多くの質問が出され、ポールの丁寧な回答があり、会は大変盛況であった。最後にポールの講演に対し全員で感謝の拍手を送り、例会を終了した。

後日篠原会長が今回の講演に対しポールに送った感謝のメールとポールからの返事を紹介し、報告を終了する。

ポール様

20日の伊東郷土研究会の例会は多くの方が見えたと聞きました。

私は地名研究の学会があつて出席できなくて申し訳ありませんでしたが、ポールさんの話を大勢の方が感動して聞いていたとの話です。また機会があれば、ポールさんに講師を務めて頂ければと思います。その時は私も必ず出席します。

伊東郷土研究会 会長 篠原 憲

篠原様

メッセージをありがとう。伊東郷土研究会のイベントにとっても多くの方が集まってくれて嬉しかった。私の個人的な目標は、伊東市民の皆さんに、IZUVIAの歴史と文化を伝え続けることです。

Paul Hoff

【事務局便り】

例年8月は当会の活動は休止ですが、今年の異常な暑さ

(毎年同じことを言っているような気もしますが)、お休みしていてよかったなというのが実感です。

7月及び9月は月例のイチゴサロン、K'sサロン、英語サロン、土曜会を開催しました。

イチゴサロンでは多くの議題の中でも会則の改訂について活発な議論が行われました。

K'sサロンにおいては毎回数カ国からの外国人

訪問者を交えての充実した会話を楽しみました。7月の英語サロンでは8月でALT勤務を終了するKyleの歓送会を開催しました。又、10月には当会共催でPaul Hoff氏による日本語講演会「流罪の地 伊豆国」が盛況に開催されました。



【編集後記】

半年以上続いたように感じる猛暑がやっと通り過ぎてくれたと思ったら11月になるというのに台風到来。その後は急速に冬がやってくるそうです。虫の声を聞きながら秋の夜長を楽しむ日本の風情はどこに行ってしまったのでしょうか。

スーパーでの野菜の高騰はこの気候のせいでしょうか？野菜だけでなくすべての物が軒並み値上がりするのは、菊池さんの書いてくださった紅海が爆撃で通れなくなったのも原因の一つかもしれません。憎しみが憎しみを呼ぶ戦争に世界中が巻き込まれていく恐ろしさをひしひしと感じます。

伊豆の国ガイドの会による韭山反射炉ガイド、すばらしかったようですね。前泊してガイド見学に参加してくださった藤本さんの真面目さにも感服です。

相良さん、通りがかりのくじ引きで中国旅行が当たってしまうなどということが本当にあるんですね。そのラッキーな旅行でもSGGらしいフレンドリーな交流をしてらっしゃる様子が目に浮かびます。

Paulさんの講演会、私も楽しく聞かせていただきましたが、小西さんのレポートでそのいきさつまでよくわかりました。ISGGも“Izuvian”の誇りを持って活動していきたいです。（N. I. 記）

伊東市善意通訳の会（ISGG）
会長 主原 一雄

（事務局）〒413-0232
伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄
e-mail : larryn@estate.ocn.ne.jp
<http://itosgg.info/>

（編集委員） 稲葉尚子、曾我廣子、加藤達雄